

# 平成25年度病害虫発生予察特殊報第1号

平成25年4月22日  
栃木県農業環境指導センター

## チャノキイロアザミウマ（新規系統）の発生について

1 害虫名：チャノキイロアザミウマ *Scirtothrips dorsalis* Hood 新規系統

2 発生物名：トルコギキョウ

3 発生経過

平成25年4月に足利市のトルコギキョウほ場で花首のコルク化、新葉の奇形、草丈の伸長抑制などの症状がみられた。被害株から採集したアザミウマ類を独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所の土田 聡 博士に同定依頼した結果、本県未発生のチャノキイロアザミウマ（新規系統）と判明した。本種の在来系統は主に木本性作物を寄主とするが、新規系統は在来系統が寄生しない各種熱帯果樹類、木本性マメ科植物、草本作物にも寄生し加害する。これまでに西南暖地を中心に、トルコギキョウ（熊本県）、ピーマン（沖縄県、高知県）、シシトウ（高知県）、マンゴー（鹿児島県、宮崎県、愛媛県、千葉県、佐賀県、福岡県）、ハウスマカン（鹿児島県）での報告がある。

4 被害の特徴

食害により花首のコルク化、蕾のわい化、新葉の奇形、草丈の伸長抑制が認められる。

5 形態

成虫は黄色で、閉じた前翅により背部中央が黒く筋状に見える。体長は雌が約0.9mm、雄が約0.8mm。在来系統との識別は外観では不可能であり、遺伝子診断を必要とする。



図1 チャノキイロアザミウマ成虫



図2 食害によるトルコギキョウ新芽の奇形

6 防除対策

- (1)施設開口部に防虫ネットを展張して侵入を防止する。また、黄色粘着テープを設置し、捕殺する。
- (2)薬剤は、トルコギキョウまたは花き類・観葉植物のアザミウマ類に登録のあるものを、農薬容器のラベル表示に従って使用する。
- (3)成虫が新葉内に多く生息するため、薬剤は新葉内にもかかるように丁寧に散布する。

詳しくは、農業環境指導センター(<http://www.jpnpn.ne.jp/tochigi/>)までお問合せ下さい。

Tel (028) 626-3086 Fax (028) 626-3012